

コープデリ生活協同組合連合会 様



co-op
コープデリ

コープデリ連合会
食卓を笑顔に、地域を豊かに。

コープデリ生活協同組合連合会 様

関東信越の生協連合会。食品の商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を共同で運営している。

所在地：埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13
URL：https://www.coopnet.jp

FUJI XEROX

富士ゼロックス埼玉株式会社 様

OA機器提供からITシステム構築まで幅広く行う埼玉県に根ざした富士ゼロックスのグループ企業。埼玉県内全てのお客様とのコラボレーションを通し「喜びの共感」および各々の「夢の実現」を分かち合い「強く・やさしく・おもしろい」企業を目指している。

所在地：埼玉県さいたま市中央区新都心11-2
ランド・アクシスター28階
URL：https://www.fujixerox.co.jp/stx/

地域の暮らしを豊かにする生協 社内ネットワークを快適にしたのはPureFlow WS1

関東信越を中心とする1都7県の7生協（コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープにいがた、コープクルコ）が加盟する「コープデリ生活協同組合連合会」（以下、コープデリ連合会）では、社内ネットワークの通信を制御する帯域制御装置の運用に不安を感じていた。予期せぬ通信による帯域の圧迫でシステムのレスポンスが低下した際に、従来のシステムでは設定変更などの対応に時間がかかったからだ。その不安を解消したのが「PureFlow WS1」である。



Anritsu envision : ensure PureFlow™ WS1

事業を支えるシステム ネットワークが生命線

コープデリ連合会は商品や物流、システム、経理、人事教育などの基盤を運営に参加する生協と共同で整備して宅配や店舗、各種サービスなどの事業の運営を効率化し、その成果として得られたメリットを消費者や組合員の生活の向上に向けた取り組みやサービス提供などに還元している。

その取り組みの一例として共働き世帯の増加に伴い調理の短時間に役立つよう、料理のレシピに必要な食材をあらかじめカットして提供するサービスや、子育てを支援する商品の提供など、消費者や組合員のライフスタイルや地域社会の変化に応じて新しい商品やサービスを積極的に開発、提供していることが挙げられる。

こうしたコープデリ連合会の消費者や組合員への商品およびサービス提供、地域社会への貢献に欠かせないのがITの活用である。コープデリ連合会では組合員情報が管理されているほか、日々入れ替わるさまざまな商品の在庫管理、商品の仕入れに伴う発注・納品・決済処理、商品の販売およびサービス提供に伴う受発注・決済処理など数多くの大規模なシステムを運用している。そのため社内ネットワークには常に膨大なトラフィックが行き交っている。

社内ネットワークを流れるデータが、的確かつスピーディに伝送され

なければ業務や処理が滞ってしまい、サービス提供やお客様対応に影響が生じる恐れがある。



コープデリ生活協同組合連合会
情報システム
システムサービス部
インフラ課 企画担当
高原 徹氏



コープデリ生活協同組合連合会
情報システム
システムサービス部
インフラ課 企画担当
西村 邦彦氏



コープデリ生活協同組合連合会
情報システム
ECシステム部 ECシステム課
課長
高橋 延之氏



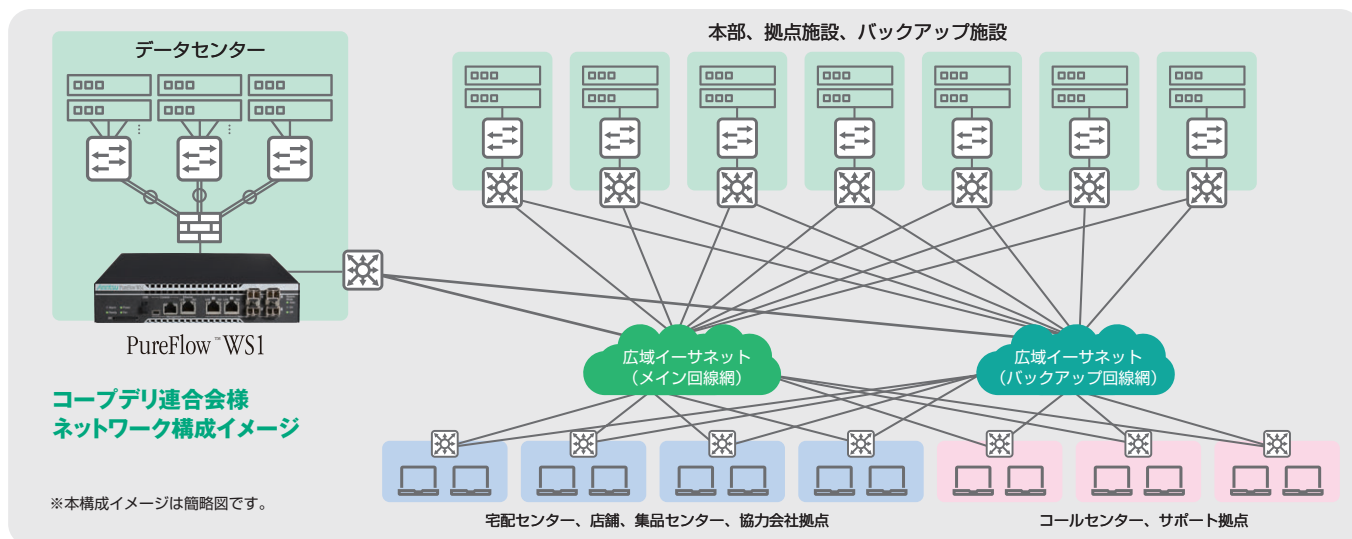
富士ゼロックス埼玉株式会社
ソリューション統括部
ソリューションサービス推進部
ソリューションサービス営業課
横山 荘一氏



富士ゼロックス埼玉株式会社
ソリューション統括部
ソリューションサービス推進部
ソリューションエンジニア2課
藤岡 優美子氏



富士ゼロックス埼玉株式会社
営業統括部
大手営業部 DS営業1課
渡邊 宣仁氏



帯域制御装置の運用が課題 設定変更に1カ月以上

コプデリ連合会ではこれまでシステムやネットワークの運用において大きな問題が生じたことはなかったが、その要因は小さな問題でも速やかに対策を講じてきたことにある。その小さな問題の一つとしてコプデリ連合会の情報システム部が気にしていたのが、社内ネットワークの通信を制御する帯域制御装置だった。

情報システム ECシステム部の高橋延之氏は「従来も業務に重要なシステムが常にスムーズに利用できるよう、帯域制御装置でネットワークの通信を制御していました。しかしユーザーからシステムのレスポンスが著しく低下しているという問い合わせを受けることがありました。従来の帯域制御装置ではどのシステムやアプリケーションの通信がネットワークの帯域を圧迫しているのかを把握するのに時間がかかり、原因が特定できた後も設定変更するために保守サービス業者に見積もりを依頼して実施するなど問題を解消するのに1カ月以上かかっていました」と従来の課題を説明する。

従来の帯域制御装置は多機能で設定箇所が多く、設定画面は英語表記だったという。そのため、操作画面や設定方法がわかりづらく製品に習熟した特定の人でないと設定変更などの操作ができなかった。情報システム サービス部の西村邦彦氏も「従来の帯域制御装置では社内で設定変更するのは無理でした」と以前を振り返る。そして従来の帯域制御装置の保守期間の期限が迫った2018年早々、いよいよ装置の入れ替えの検討が始まった。

わずか30分で設定変更を完了 コスト面でも大きなメリット

コプデリ連合会の情報システム部が新たに導入する帯域制御装置に求めたのは、シンプルで使いやすいことだった。

情報システム部 サービス部の高原 徹氏は「従来の装置が

多機能で設定がわかりづらかったため、次に導入する装置は機能がシンプルで簡単に設定できること、そして通信の利用状況がすぐに把握できるようにレポート機能も備えていることを望みました」と説明する。

そして数社から提案を受けたコプデリ連合会の情報システム部が選んだのが、富士ゼロックス埼玉の提案した「PureFlow WS1」だった。西村氏は「PureFlow WS1は帯域制御に特化していること、設定画面が日本語でわかりやすく設定が容易なこと、運用に携わる人が誰でも設定変更の対応ができることが決め手でした。国内メーカーであることの安心感から印象がよかった」と説明する。

提案した富士ゼロックス埼玉の横山荘一氏は「機能がシンプルで扱いやすいので、帯域制御装置の提案にはPureFlow WS1が有利です」とアピールする。さらに藤岡優美子氏と渡邊宣仁氏は「PureFlow WS1は機能をシンプル化することで魅力的な価格競争力も実現しています。さらにHDD非搭載による耐障害性の高さも重要な特長です。」と強調する。

導入の効果についてコプデリ連合会の高橋氏は「PureFlow WS1を導入してから通信の利用状況が即座に確認でき、設定変更も社内に対応できるようになりました。設定変更にかかる時間もわずか30分ほどで済みますから、ユーザーからの問い合わせに対する対応レスポンスも大きく改善しました。大幅な省力化と時短が実現できたと言えます」と満足気だ。さらに西村氏も「業務負担が大幅に軽減され、初期投資も抑えられたため、コスト面でも大きなメリットがありました」と喜ぶ。

特に新たな製品を採用する場合、不安となる点が製品サポートである。実際に海外ベンダーの製品を採用する場合、技術的な問題が発生した時のコミュニケーションやレスポンスの遅さに悩まされることが多いが、国内開発製品のPureFlow WS1は迅速なサポートが提供されており、多数の導入実績を持つSCSKのノウハウと相まって、導入後も安心して利用できる体制が実現できている。

PureFlow WS1はAPIを公開しており、独自の制御を行うプログラムを作ることも可能だ。西村氏は「時間帯ごとに制御パターンを切り替えるプログラムを作りたい」と意気込んでおり、PureFlow WS1によるさらなるベネフィットを期待している。

※記載の情報は、取材日現在の情報です。

※本書制作 SCSK株式会社 ネットワーク部

本書記載内容に関するお問い合わせ